

「ファクトチェック」とメディア

メディアに関心があり、平松邦夫・元大阪市長が主催する「公共政策ラボ」セミナーに参加した。テーマは「ファクトチェック」であり、講師は立岩陽一郎さん。立岩さんはNHKのテヘラン特派員、国際放送局デスクなどを務め、現在は調査報道NPO「ニュースのタネ」編集長。

話は話題の「ロシア疑惑」を軽視する日本から始まる。米トランプ大統領の発言は8割が事実でないとも。「ファクトチェックをやる」として、昨年9月25日の安倍内閣総理大臣記者会見を題材にして、参加者がコピーをチェックした。細かな字に目を集中させたが、どうも「回答」が思い浮かばない。立岩さんは消費税2%引上げにより5兆円強の税収となることをファクトチェックして、根拠のない発言に一定の反響があったと述べる。

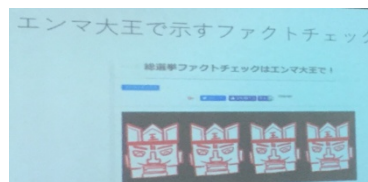
休憩をはさんで、ファクトを軽視する日本のメディアに話に移る。例として、米朝関係報道に見るファクトを無視したテレビ報道を取り上げる。「日米関係筋」といった、出所や根拠が薄弱なまま報道される日本の現状を問い直す。

立岩さんと平松さんのトークセッションも興味深いものがあった。平松さんは放送メディアで活躍した経験から、「それ、ホンマ？」と問いかけることの大切さを語った。立岩さんはファクトチェックの大阪の事例として、昨年の衆院選での「維新」松井大阪府知事の発言を紹介する。大阪ではよく知られた話のようだが、はじめて聞いた。松井氏は大阪では4歳から高校まで、教育の無償化を実現していると。「大阪では」という発言に疑問を持ち、電話で市役所などに確認すると、ごく一部の自治体だけ。これが公表されると、松井も発言しなくなった。

質疑の時間となり、思い切って質問した。立岩さんが講演冒頭、「知らないことを知っているように話す」と述べたことへの感想を述べ、ファクトチェックとヘイトの違いについて、「沖縄ヘイト」を例にお聞きした。立岩さんは永田浩三編『フェイクと憎悪 歪むメディアと民主主義』のタイトルについての議論を紹介しながら、その違いを詳しく説明した。

立岩さんらは今後、沖縄のファクトチェックを進めていくようだ。沖縄も興味深いだが、やはり地元大阪について「大阪市つぶし＝大阪都・特別区構想」「カジノ万博」に関心がある。先に紹介した松井大阪府知事の発言にみられるように、10年におよぶ「維新政治」のもとで、大阪は政治と経済、文化、市民生活など多くの問題を抱えている。

ファクトチェックにより、大阪問題を具体的に考えてみたい。



(2018年7月18日)